

# 平成28年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成29年4月7日

研究・研修課題名	がんのリハビリテーション研修修了のための研修補助
研究・研修組織名（所属）	リハビリテーション部
研究・研修責任者名（所属）	道端ゆう子（リハビリテーション部）
共同研究・研修者名（所属）	石田修平、松村知華、吉田朝海（リハビリテーション部）、沖田聡司（卒後研修センター）、村上知恵子(看護部)

## 目的及び方法、成果の内容

### ①目的（800字程度）

当院はがん診療連携拠点病院であり、がん患者へのリハビリテーションの提供が必須である。がん患者リハビリテーション料が算定できる条件として、指定された研修を履修した医師が指示書を処方すること、指定された研修を履修した療法士が担当することが条件となっている。がん患者に対するリハビリ依頼は増加傾向であり、既に研修を終えた療法士12名でも対応が困難となっている。よって、新たに担当できる療法士を増やし診療の質の向上を目的とする。

### ②方法（800字程度）

島根がんのリハビリテーション研修会実行委員会が主催し、平成28年8月8日から9日に実施される「がんのリハビリテーション研修」に医師1名、看護師1名、療法士3名がチームで参加する。

### ③成果（データ等の図表を入れて2000字程度）

研修の受講により、がん患者のリハビリテーションを実施する上で必要な知識とスキルを身につけることができた。また、他職種で同じ内容を共有することができた。具体的な講義内容は、

- 1) がんのリハビリテーションの概要
- 2) 周術期のリハビリテーション
- 3) 化学療法・放射線療法の合併症とリスク管理、骨転移患者への対応
- 4) 歩行・基本動作・ADL・IADL 障害に対する対応
- 5) 進行がん患者に対するリハビリテーションアプローチ
- 6) 心のケアとリハビリテーション
- 7) がん患者の摂食・嚥下障害・コミュニケーション障害
- 8) 口腔ケア
- 9) リハビリテーションにおける看護師の役割

と多岐に渡る内容で、症例提示を交えた臨床に即したものであり大変参考になった。

また、

- 1) がんのリハビリテーションの問題点
- 2) 模擬カンファレンス
- 3) 問題点の職種別検討
- 4) がんのリハビリテーションの問題点の解決

などのグループワークの時間も多く、課題をチームや他病院の職員とで解決する機会が得られた。こ

れにより、がん患者のリハビリテーションに必要なチーム力を高めることができた。

また、他病院の課題や問題点、解決策などを聞くことにより、各病院の実情や特色が知れ、県内開催のメリットも得られた。

今回も医師は研修医に参加して頂き、今後の医療の担い手である若い医師にがんのリハビリテーションの存在や重要性を知ってもらうことができた。看護師も緩和ケア病棟の看護師に参加頂き、緩和期であってもリハビリテーションの適応があることが周知でき、連携がしやすくなる成果が得られた。

療法士は理学療法士 2 名、作業療法士 1 名が研修に参加した。これにより本院では「がん患者リハビリテーション料」が算定可能な療法士は 12 名から 15 名（スタッフ全体の 58%）に増えた。これによりがん患者リハビリテーション料の算定数も増え、平成 28 年 4 月から同年 11 月の理学療法と作業療法の依頼数は月平均 280 件であったが、研修参加後の平成 28 年 12 月から平成 29 年 3 月の依頼数の月平均は 340 件となっている。これによりリハビリテーションがより多くのがん患者に提供され、日常生活動作の向上、生活の質の向上に貢献でき、強いては家族の介護負担軽減にも繋がったのではないかと考える。

収益としても、平成 27 年度のがん患者リハビリテーション料が約 900 万円であったのに対し、平成 28 年度は 1200 万円に増加している。

今後も、ニーズが多様化し、増え続けるがん患者に対応すべく、対応できる療法指数を増やすと共に質の高いリハビリテーションを提供できるようチーム力を高めたい。